

東京大学では、全学や部局による社会貢献活動として多くの地域連携事業が行われています。本シンポジウムは、現在、全学や部局で展開している事業間の情報共有の場を設け、同様な課題を有する地域で行われている事業の連携を促進することを目的としています。

日時：2024年 2月7日 (水)

15時00分～17時00分 (開場14時30分)

会場：東京大学山上会館大会議室 (本郷地区キャンパス内)  
+ オンライン (Zoom ウェビナー)

参加方法：会場、オンラインとも事前申込となります。下記QRコードより各々お申込ください。



会場参加用



オンライン視聴用

# 遠隔地施設における 所在地自治体との 地域連携

## プログラム

進行： 丹下 健 東京大学副学長 / 社会連携本部副本部長

1) 開会挨拶 津田 敦 東京大学理事・副学長 / 社会連携本部長

2) 講演① 「演習林と所在地自治体が連携した取り組み」



蔵治 光一郎

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林企画部・教授

3) 講演② 「地方にある高等教育・研究機関の役割」



峰岸 有紀

東京大学大気海洋研究所附属国際・地域連携研究センター・准教授

4) 講演③ 「それは地元の熱意から始まった  
— 常呂実習施設の歴史と現在 —」



熊木 俊朗

東京大学大学院人文社会系研究科附属北海文化研究常呂実習施設・教授

5) トークセッション 「遠隔地施設における地域連携の未来」

モデレーター：

秋山 聡 東京大学副学長 / 社会連携本部副本部長

登壇者：

津田 敦 東京大学理事・副学長 / 社会連携本部長

蔵治 光一郎 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林企画部・教授

澤田 健 富良野市教育委員会生涯学習センター・所長

峰岸 有紀 東京大学大気海洋研究所附属国際・地域連携研究センター・准教授

佐々木 護 釜石市総務企画部総合政策課・課長補佐

山田 哲 北見市教育委員会ところ遺跡の森・所長

6) 閉会挨拶 丹下 健 東京大学副学長 / 社会連携本部副本部長

参加費  
無料



問合せ先：東京大学本部社会連携推進課

e-mail：ext-info.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

主催：東京大学 社会連携本部、未来社会協創推進本部社会連携分科会



# 遠隔地施設における 所在地自治体との地域連携



### ● 今回のシンポジウムで取り上げる施設

#### ① 東京大学農学生命科学研究科附属演習林

東大演習林は、北海道から愛知県に至る 7 都道県、10 市町村にあり、学部、大学院において、森林に関わる教育を行うとともに、そのための最適なフィールドを提供することを教育のミッションとして、また、森林を中心とした自然環境および森林と人との関わりについての専門的な研究の促進、大学を中心とした研究組織に最適なフィールドおよび森林を中心とした自然環境の動態に関する記録（データ）を提供することを研究のミッションとして掲げています。さらに、科学と社会をつなぐ森として、所在地市町村と協定を締結し、学校教育や生涯教育をはじめとする社会教育をより豊かなものにするための仕組みとフィールドを提供することを社会連携のミッションとして掲げています。



#### ② 東京大学大気海洋研究所 国際・地域連携研究センター 地域連携研究部門大槌研究拠点（通称：大槌沿岸センター）

大槌沿岸センターは、沿岸域の海洋研究の拠点として 1973 年に「大槌臨海センター」として岩手県大槌町に設立されました。2011 年の震災で大きな被害を受けましたが、2018 年に研究棟を再建し、昨年設立 50 年を迎えました。センターには現在 7 名の教員が常駐し、三陸沿岸域を中心に海洋物理学、海洋化学、生物学、古気候学、民俗学等の基礎科学研究と長期海洋環境モニタリングを推進しています。一方、海とともに生きる三陸沿岸を中心に、社会科学研究所と協働して研究教育プロジェクト「海と希望の学校 in 三陸」を展開しています。地域の海を知ることで、地域の海を誇りに思うことを目指し、地元の小中高等学校、自治体、企業、官公庁、市民団体など市民と広く連携して様々な活動を行っています。



#### ③ 東京大学大学院人文社会系研究科附属 北海文化研究 常呂実習施設・常呂資料陳列館

本郷キャンパスの外にある人文社会系研究科唯一の施設で、北海道東部のオホーツク海に面した人口 3,400 人ほどの漁業と農業を基幹産業とする北見市常呂町に所在しています。国内有数規模の古代文化の遺跡が存在するこの地域を拠点として、東北アジア地域の考古学を中心とする研究と教育を半世紀以上にわたって続けてきました。遺跡の発掘は地域住民からの声を受けて 1957 年に開始され、その後は地元の支援を受けて施設が整備され、現在は北見市教育委員会の文化財担当（「ところ遺跡の森」）と一体となって活動しています。遺跡の発掘実習や博物館学実習など学内の教育プログラムが開講されているほか、企画展示や公開講座、文化財保護などへの協力を通じて地域との連携を推進しています。

